



第87回 尾道市医師会定時総会

尾道市医師会広報担当理事 日 下 治

平成19年2月25日(日)午後2時より、尾道国際ホテルにおいて、標記定時総会が開催された。まず委任状を含めて222名(会員総数280名)の出席があることにより石井大二議長から総会の成立が宣言された。議事録署名者に住元吉明先生と岡橋誠先生が指名された後、物故会員(故西岡謙定先生)に対して全員起立し黙祷を捧げた。

次いで、片山壽会長が挨拶に立ち、平成18年度の尾道市医師会活動の報告と今後の活動方針について次のように説明があった。

昨年の尾道市医師会100周年記念式典では記念講演の演者に辻厚生労働事務次官を迎え、尾道市医師会の「地域医療からの地域づくり」に高い評価をいただいたことは、会員による地域医療連携の努力の結果である。また、尾道市医師会方式長期支援ケアマネジメントプログラムは定着して来ており、「新・地域ケア尾道方式」も昨年9月社医民連協に尾道市公衆衛生推進協議会が加入したことにより、医療と福祉の合体が可能となり、今後は市民を巻き込んで動かして行きたい。

さらに、昨年12月に「広島県地域ケア整備推進委員会」がスタートして、医療介護連携部会の部会長を拝命したが、調査分析部会長の山口昇先生(公立みつぎ総合病院管理者)と緊密な連携を取りつつ、医療制度改革の荒波に対応するべく慎重に地域医療連携・介護システムの体制作りを行って行きたい。これに関しては、県医師会の医療政策検討会議(寺岡暉議長)の中に専門部会を設置することを碓井会長に承認いただき、2月の全理事会・市郡地区医師会長連絡協議会で了承されたと述べられた。



最後に、これから数年間は未ぞうの医療激動期が待ち受けているので、われわれは尾道市医師会方式をさらに進化させることにより乗り切れるよう、誇りを持って邁進しようと結ばれた。

次に各担当理事による諸報告がパワーポイントにより簡潔明瞭に行われた。続いて、公的3病院(JA尾道総合病院、尾道市立市民病院、公立みつぎ総合病院)院長から近況報告があり、それぞれの病院の現況や事業計画、病診連携への取り組みの成果などについて述べられた。

続いて、昨年の創立100周年記念事業のために一部処分された尾道市医師会基金の収支が報告された後、議案審議に入った。平成17年度の決算関係11議案が上程審議され、原案通り可決承認された。

休憩の後、福原純一副議長に交替して、平成18年度の補正予算関係2議案、平成19年度の予算関係7議案、さらに、尾道市医師会定款の一部改正に関する件が審議され、全て執行部の原案どおり可決承認された。

次に、協議会が開催された。片山会長より、現在、行政より委託されている地域包括支援センターは、全国でも問題になっているように予防センター化しており、本来の包括支援業務ができない状態で、中核スタッフの極度の疲弊を招いているという深刻な状況である。自治体に本質的理解が欠落しているのが問題で、国の指導どおり自治体の直営でやるべきであり、今年度より委託を返上するとの報告があった。また、尾道市医師会看護専門学校のような定時制の医師会立看護師養成校は全国で3校のみとなり、入学志願者の減少と質の低下は深刻であり、将来に存亡の危機を感じる。市立の尾道大学に

「医療福祉学部」を新設し、看護師をはじめ理学療法士、作業療法士等を養成することができれば、地元卒の設定により、市内の医療機関に優秀な人材を雇用可能となるので、現在行政に働きかけているところであると述べられた。さらに、今年度新しく宮野良隆理事の熱意で「尾道市医師会性感染症・HIV対策プロジェクト委員会(仮称)」を立ち上げ、行政、教育関係者とともに、尾道から巣立って行く若者に正しい性知識を啓発し、性感染症の蔓延を防止できるように活動していくと説明された。

また、尾道総合病院の黒田義則院長により、新病院構想が披露され、「INNOVATION、SAFETY & AMENITY」をコンセプトに、市内平原台に約120億円をかけて約4,000坪の新病院を建設することになった。平成22年5月には移転の予定で、398床と若干病床数は減少するが

地域に根差した病院を目指したいので、会員の忌憚ない意見をお願いしたいと述べられた。

続いて、一旦閉会の後、尾道市医師連盟総会が開催された。片山会長は、日本医師連盟としては本年7月の参議院選挙で武見敬三氏を後援することになったので支援金の依頼が来ると思うが、あくまで会員個人の意志を尊重したいと述べられた。

総会終了後、午後5時半頃より懇親会に移った。元尾道市医師会長の諫見勝則先生の、尾道市医師会は看護養成部門も介護保険部門も大変な時期を迎えているようだが、これからも若い力で頑張ってもらいたいという乾杯の発声で懇親会が始まり、会場のあちこちに和やかな歓談の輪が広がった。最後は三宅規之副会長の閉会の辞により、無事全日程を終了した。



平成18年度第2回因島医師会定例総会

副会長 岡崎 純二



平成19年2月26日、因島医師会病院、会議室において標記定例総会が開催された。議長の挨拶、定足数の確認の後、弓場会長が、「医療を取り巻く環境はきびしいものになっており、それは患者さんの療養環境の悪化につながりかねない。因島医師会病院も減収が予想される中、何とか医師の確保や病床の有効利用を考え、患者さんの利便性を向上させ、収益を確保するよう頑張っている。会員各位の一層のご協力をお願いします。」と挨拶を行った。

その後、議案審議に入り

議案第2号 平成19年度因島医師会事業計画について

議案第3号 平成19年度因島医師会会計予算について

議案第4号 平成19年度因島医師会在宅ケア

センター会計予算について

議案第5号 平成19年度因島医師会病院会計予算について

議案第6号 社団法人因島医師会定款の変更について

が上程された。特に事業計画では、委託事業の地域包括支援センターの業務が、介護予防に追い回され、本来の支援センターとしての働きが十分できてなく、委託契約を取りやめることも検討されたが、19年度に市と運営につき協議することで本年度の委託契約を結ぶこととなった。その他の議案は報告どおり可決され、議長のスムーズな議事進行に協力いただいたお礼が述べられ、定例総会を終了した。

この総会に先立ち、元会長の田中明先生が米寿を迎えられ、会長から記念品が贈られた。会員が米寿を迎えられることは因島医師会の歴史でも初めてのことであり、会員一同心からお祝いを申し上げた。田中先生のお礼のお言葉の中で、「まだまだ健康なので、ゴルフを楽しみたい。あと2-3回はエージシュートを達成したい」と抱負を述べられた。

総会終了後、会場を移し、懇親会に移り、久しぶりにお会いする先生方同士では昔話に花が咲き、いつものように三々五々と夜の街に消えていった。